

福山大学

# 備後経済論

Bingo keizairon

福山大学経済学部の後期授業「備後経済論」（担当・張楓教授）では、地元経営者ら一一人が講師を務め、一人一時限を担当。それぞれが自社の歩みや今後の展望、経営理念や若い世代に向けたメッセージなどを語る。

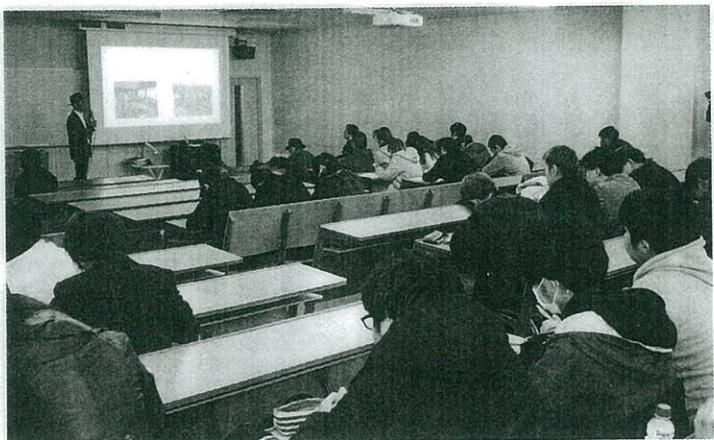
昨年12月19日の授業では、旅行業の福山観光旅行株（福山市丸之内一一三一九）、漆川治樹常務が登場。「地域の光を世界に発信～サイクリングツーリズムの可能性」と題して講演した。要旨は次の通り。



## 「地域の光」を発信し 瀬戸内と世界つなぐ

福山観光旅行株  
福山市丸之内1-3-19

漆川治樹 常務



福山観光旅行は私の祖父である高橋晋が1971年に設立し、間もなく五〇周年を迎える。福山駅からすぐの場所に店舗を構え、国

典の「易經」にある「觀國之光」という言葉だ。もともとは皇帝が国内の産物などを視察する行為を指していた。私はこれから時代、「旅行」の再定義が必要なのでほど考へている。それは従来の「物

### サイクリングで観光誘致

見遊山」的観光から脱却し、例えば地域の産業や企業を外部の方に発信することだ。

「福山には何もない」などと言われるが、実はたくさん地域資源」「光」があると思う。当社の社名には「觀

消費者は「旅行そのもの」からハワイ、ヨーロッパなど「目的地」に価値を置くようになった。

「觀光」の語源は、中国古

内・海外旅行を手掛けている。社員旅行や出張の手配など、法人・団体向けがマーケット。店内にはカフェも併設している。

私は98年に地元の盈進高を卒業し、下関市立大の経済学部国際商学科へ進んだ。カナダの大学院への留学を経験した後、帰福して地場企業の貿易課で三年間働いてから、家業である当社に入社した。

祖父が会社を興した当時は、旅行に行くこと 자체がまだ困難で、情報は不足しており道路網も未整備。そのため団体でバスを仕立てるスタイルの最盛期だった。しかしその後、

福山駅北側にある福山観光旅行



では、われわれの地域で観光の柱となるのは何か。私が帰福した頃、しまなみ海道が整備されてサイクリングブームが始まっていた。これからは一帯にたくさんの人が来る予見し、何とかこの波に乗みたいと考えた。

時を同じくして、友人と立ち上げた。勉強会を開いて企業内ベンチャーや新規事業の

ざまな方をご案内する」と定義すれば分かりやすいだろうか。これに従えば、インバウンドは「観光」に当たる。

では、われわれの地域で観光の柱となるのは何か。私が帰福した頃、しまなみ海道が整備されてサイクリングブームが始まっていた。これからは一帯にたくさんの人が来る予見し、何とかこの波に乗みたいと考えた。

## 「おもてなし」再考を

ジャカルタでは富裕層の間でサイクリングが流行していた。しまなみ海道の知名度はなかつたが、2015年に現地サイクリングチームを呼ぶことに成功した。参加者は最初は不安を感じていた様子だったが、実際に来ていただく

と本当に喜んでくれ、しまなみ地域を好きになってくれた。

これに商機を見いだし、一



店内にはカフェも併設

道のガイド業者や愛媛県の地域商社と当社で「Japan Cycling Network」を発足させた。サイクリングを通じて地域に長く滞在してもらうことや土産物の開発、外部から地域への投資促進が目的だ。

最近、日本の「おもてなし」はすごく危ないと思っている。作法や言葉遣いがどんどんマニュアル化されているが、重要なのはそこではない気がする。インドネシアのインバントに参加すると、お客様に楽しんで帰つてもらおうという「心」を感じる。ところが日本では、形式が先行して「心」が無くなつていつているのでは。

ラベルジャーナル」に私の論文が掲載された。「地方創生における旅行産業の役割と可能性」というタイトルで、地元の人によるガイドで観光客との関係を深めるスタイルの呼び込みといった事業を実施した。しかし通関規制や工費高騰などの影響で頓挫し、結局法人を閉じることに。それでも先方との関係は途切れることなく続いた。

18年には、旅行雑誌「ト



インドネシアからしまなみ海道にサイクリングツアーを誘致

は、自転車輸送用のボックスコンテナのメーカーとパートナーを組んでいた。19年には中国経済産業局の事業で、広域サイクリングの実証実験に参画。広域連携では、北海道のガイド業者や愛媛県の地域商社と当社で「Japan Cycling Network」を発足させた。

海外へ出て行く日本人は、1997年ごろに一五〇〇万人を突破したが、二〇年後には二八〇〇万人にとどまっている。海外に旅行できる環境は整っているので、皆さんもぜひ海外でいろいろな人と接し、影響を受けてほしい。私たちのツアーやV.I.P.が来てくれるようになつて、サイクリングツーリズムを通して地域を活性化していきたい。

海外へ出て行く日本人は、1997年ごろに一五〇〇万人を突破したが、二〇年後には二八〇〇万人にとどまっている。海外に旅行できる環境は整っているので、皆さんもぜひ海外でいろいろな人と接し、影響を受けてほしい。私たちのツアーやV.I.P.が来てくれるようになつて、サイクリングツーリズムを通して地域を活性化していきたい。

海外へ出て行く日本人は、1997年ごろに一五〇〇万人を突破したが、二〇年後には二八〇〇万人にとどまっている。海外に旅行できる環境は整っているので、皆さんもぜひ海外でいろいろな人と接し、影響を受けてほしい。私たちのツアーやV.I.P.が来てくれるようになつて、サイクリングツーリズムを通して地域を活性化していきたい。

海外へ出て行く日本人は、1997年ごろに一五〇〇万人を突破したが、二〇年後には二八〇〇万人にとどまっている。海外に旅行できる環境は整っているので、皆さんもぜひ海外でいろいろな人と接し、影響を受けてほしい。私たちのツアーやV.I.P.が来てくれるようになつて、サイクリングツーリズムを通して地域を活性化していきたい。